

平成 30 年度学校評価について（まとめ）

対象	実施時期	回収数	備考
職員	9月, 1月	59名, 61名	年2回実施
生徒	12月	928名	HR等で実施
保護者	12月	812名	事前に配布し面談時に回収
近隣中学校	12月	37校	在籍生徒の出身中学を対象

※ アンケートの評価点 4.思う 3.どちらかといえば思う 2.どちらかといえば思わない 1.思わない
0.わからない

1 職員対象の調査から

具体的な目標・方策に対する評価は、概ね良好な結果が出ている。各校務分掌の計画に従い、全職員協力のもとに様々な施策に取り組んできた結果とみることができるが、今後更に取り組むべき課題としては、「授業に関する研究体制」の充実があげられる。

そのため、他の小中学校、高等学校が実施した公開授業や研究協議への参加や先進校視察、校内での授業見学の実施等、アクティブラーニングを中心とした生徒の主体的・対話的な授業の取り組みについて、研究を続けている。

2 生徒対象の調査から

(1) 評価点平均の高い項目について

アンケート全 49 項目のうち 33 項目が平均点 3.0 を超え、多くの生徒が学校生活を充実したものと捉えていると考えることができる。それらのうち、平均点が特に高いものは、次の 4 項目である。

「日々の生活指導が、体罰によらない適切な指導だと思いますか。」(3.5)

「牛久栄進生の髪型・服装などが、高校生らしいと思いますか。」「部活動が活発であると思いますか。」「校歌が歌えますか。(1番まで)」(3.4)

(2) 評価点平均の低い項目について

平均点が 2.5 を下回っていた項目は、「図書館をよく利用していますか。」(2.0), 「生徒会活動に関心を持っていますか。」(2.2), 「自分の年次の目標や指導方針を知っていますか。」(2.3), の 3 項目であり、昨年と同様であった。

(3) 年次による変化

年次の中で評価項目 3・4 の割合が最も高い項目が最多の年次は、3 年次の 26 項目で、もっとも低い項目が最多の年次は、1 年次の 30 項目である。1 年次ではまだ学校生活や学習に対する意識や理解が十分ではなく、各項目で評価が低い傾向が見られ、年次が進行するとともに評価が改善される傾向がある。日々の自己研鑽に努める姿勢が、牛久栄進生のさらなる成長をもたらすものと期待できる。

3 保護者対象の調査から

全 24 項目のうち、19 項目で平均点が 3.0 を超えた。それらのうち、特に高いものは、次の 2 項目である。

「本校にお子さんを入學させてよかったですか。」「本校では、生徒の実態に即した、体罰によらない適切な体罰によらない適切な生徒指導をしていると思いますか。」(3.5)

昨年同様、平均点が 2.5 を下回っていた項目はなく、改善している傾向が見られる。

4 中学校対象の調査から

本年度も本校の教育活動について非常に高い評価をいただいた。それらのうち特に高いものは、次の 2 項目である。

「本校は、単位制の特長を生かし「活力ある進学校」づくりに取り組んでいると思いますか。」「本校では、生徒の学力を高めるために、熱心な学習指導が行われていると思いますか。」(3.7) である。

本校の目指す「活力ある進学校」「個に応じた学習指導」及び「自主自律の人づくり」の目標達成に向けた指導体制の確立し、創意と工夫をもった実践の適切な情報発信に取り組みたい。

5 まとめとして

本年度のアンケートでは、生徒、保護者、近隣中学校から高い評価を得ることができたが、一方では自由記述等を通して改善を望む声も聞くことができた。今後とも現状に満足することなく、本校の目標達成を目指して取り組んでいきたい。

※ 学校評価の詳細は本校のホームページをご覧ください。